

病虫害発生予察注意報第2号

平成28年7月21日
三重県病虫害防除所

1. 対象作物 : 水稻
2. 対象病虫害名 : 斑点米カメムシ類(クモヘリカメムシ、ホソハリカメムシ等)
3. 発生地域 : 県内全域
4. 発生時期 : 7月中旬～8月中旬
5. 予想発生量 : やや多～多

6. 注意報発令の根拠

- 1) 巡回調査圃場(7月第2週)では、圃場内および畦畔イネ科雑草すくい取りによる、中型種(クモヘリカメムシ、ホソハリカメムシ、シラホシカメムシ類)の発生地点率16.9%(平成27年32.7%)、すくい取り成幼虫数0.81頭(平成27年1.26頭)と少ない状況でした。また、微小種(アカスジカスミカメ)の発生地点率2.5%(平成27年30.0%)すくい取り成虫数0.04頭(平成27年3.5頭)と中型種と同様、少ない状況でした。しかしながら、クモヘリカメムシの発生地点率9.3%(平成27年6.6%)、すくい取り成幼虫数0.68頭(平成27年0.49頭)と発生が多く注意が必要です。クモヘリカメムシは、水田外のイネ科雑草群落を発生源とし、出穂後に水田に侵入して増殖することが知られており、成幼虫が吸汁加害すると不稔や斑点米を引き起こします。
- 2) 広域病虫害防除員調査(7月2日～11日)では、クモヘリカメムシ、ホソハリカメムシ、シラホシカメムシ類のすくい取り成虫数が、それぞれ、1.16頭(平成27年0.14頭)、0.78頭(平成27年0.28頭)、0.08頭(平成27年0.06頭)と多い状況でした。また、アカスジカスミカメ成虫の活動が確認されました。
- 3) 1か月予報(7月14日・名古屋地方気象台発表)によると、気温は平成27年並か高い見込みです。斑点米カメムシ類の増殖に助長的です。

7. 防除上の注意事項

- 1) 薬剤防除は穂揃い期に実施しましょう。斑点米カメムシ類は移動性が高いため、広域での一斉防除が効果的です。
- 2) 水田内での増殖を防ぐため、防除後も水田への侵入が確認される場合は、穂揃い期防除の7～10日後に追加防除を実施してください。
- 3) 周囲よりも出穂の早い水田では、被害が集中するので防除を徹底しましょう。
- 4) 出穂直前および出穂後の草刈りは、斑点米カメムシ類を水田内へ追い込み、加害を助長するので避けましょう。やむを得ず出穂前後に草刈りを行う場合は、水田の薬剤防除に合わせて実施しましょう。

農薬はラベルの表示を確認して、正しく使用してください！